北海道教育大学ハンドボールキャラバン実技講習会

米村　耕平

概要

1 日時：2025 年 7 月 16 日　9：00～12：10
2 会場：北海道教育大学
3 人数：学生教約 96 名、小学校教員 3 名
4 題目:台形ゴールハンドボール教材を用いた体育授業づくり
5形式:実技講習

内容

実技講習の導入として、コート全体でランパスを行い、教材用ハンドボール（H1C1800GY）に慣れる運動を行った。このペアで行うボール操作はパスでコートを移動する際の最小単位のパスワークであり、メインゲームの課題（シュートエリアまでの効率的なボール運び）を解決する方法の一つでもある。

このランパスの後、本講習で行うメインゲームである台形ゴールハンドボールゲーム教材の解説を行った。図 1 に示す通り台形ゴールハンドボール教材の特徴はゴールが台形であり、ゴール前 180°全ての角度から得点しやすい状況をつくっていること、そしてディフェンスの動ける範囲を制限し、常にオフェンス側の数的優位を保障していることである。また、ボール移動にかかるボール操作はパスのみであり、ボール保持者は動けないというルールが設定され、ディフェンスは身体接触を伴わいない進路妨害やパスカットにより守備を行うことになる。これにより、シュートエリまでボールを運ぶことやシュートエリアでシュートするというゲームの目的達成に関する技術的戦術的課題の簡易化が図られている。

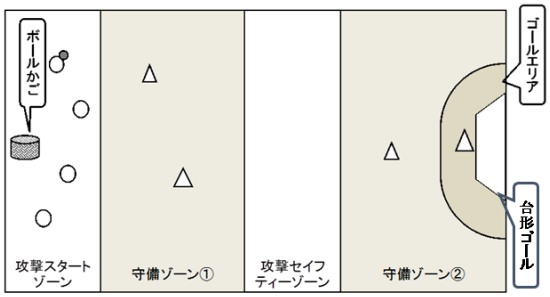

図１　台形ゴールハンドボールのコート図

ゲーム教材の説明終了後、受講者たちは 6 つのチームに分かれ、ゲーム時間前後半で 3 分の間にどれくらい得点できるか学習カードを参考に話し合い、予想得点の決定と発表を行った。それぞれの予想得点は 3 点から 6 点あった。その後、予想通り得点をとれるか確かめのゲームを行った。その際、自チームの攻撃回数、シュート数、得点の 3 つのゲームデータの収集を行わせた。ゲームの結果については予想通りの得点がとれたのか振り返りを行い、次のゲームでもっと得点するための課題をゲームデータから明らかにした。具体的には、ゲームデータが「攻撃回数＞シュート数」の場合はシュートエリアまでのボール運びに課題があること、「シュート数＞得点」の場合はシュートエリアでのシュートの仕方に課題がることなどである。この課題解決の方法についてさらに話し合いを行い、再度ゲームにチャレンジした。その結果、多くのチームで 1 試合目より得点を増やすことができた。

成果

受講生の多くが、小学校の体育授業をイメージしながら本講習を受けることができ、簡易化されたゴール型ゲーム教材である台形ゴールハンドボール教材の有効性について体験的に学ぶことができた。